

屋久島生態系モニタリング

屋久島西部の植生垂直分布調査 (平成21年度調査)

**標高1200mプロットの植生

本プロットは、標高1300mピークの崖下に該当し、局所地形は山腹上部の凹凸型急斜面で、平均斜面方位は北西向き。付近はツガ大径木の群落内で、スギやヒノキの大径木も混在。ツガ大径木の群落は、標高1150m～1200m程度に見られる。[高木層]ツガ・アカガシ・スギ・ヤマグルマが混生。[亜高木層]ハイノキが多く、ソゴ・サクラツツジ・シキミ・オニクロキ・イヌガシ・サカキが数本出現して、ヒイラギ・ヤブツバキも生育。[低木層]ハイノキが最多、シキミ・サクラツツジ・イヌガシ・オニクロキ・アセビ等が混生。[草本層]ハイノキが最多で、サクラツツジ・ヒサカキ・シキミの個体数も多い。他にはヒイラギやソゴの稚樹、アセビ・ヒメサカキ・オオゴカヨウオウレン・オオクボシダ・ヤクシマスマシレも出現。[群集および特徴的な出現樹種]ツガ・ハイノキ群集と認められ、指標種は垂直分布の点からスギ・ツガ・ヤマグルマ・ソゴ・アセビ。[前回(平成16年度)との比較]階層ごとの優占種、樹高、植被率の変化はみられない。前回亜高木層で低木層との境界付近だったハイノキ、サクラツツジ、ソゴなどの一部が被圧枯死した。また、前回低木層だったオニクロキ、ヤブツバキなどの一部が亜高木層へ、草本層だったサクラツツジ、オニクロキ、アセビの一部が低木層へと移行していた。草本層ではツルアリドオン・チャボシライトソウ・ホソバトウゲシバ・モクレイシ・サルトリイバラ・シロダモ・イワガラミが消滅したが、これは調査時期に根雪が残っていたことによる。

オオスズメバチの巣は、木が分布する南限域に当たります。初夏に羽化が始まる働き蜂は、秋に個体数が最大となり、一つの巣で数百匹にも上る集団を形成します。また、この時期には大量の雄蜂や女王蜂の養育が必要となる一方で、餌となる大型の昆虫が減少するため、働き蜂が特に凶暴になると言われています。



木の根元に作られたオオスズメバチの巣
(掘り出した土や木くずで、地面の色が変わっている。)

スズメバチの仲間には比較的大型かつ攻撃的な種類が多いことで知られますが、日本の蜂の中で最も強い毒を持ち、かつ攻撃性も非常に高いオオスズメバチには特に注意が必要です。屋久島は、オオスズメバチが分布する南限域に当たります。初夏に羽化が始まる働き蜂は、秋に個体数が最大となり、一つの巣で数百匹にも上る集団を形成します。また、この時期には大量の雄蜂や女王蜂の養育が必要となる一方で、餌となる大型の昆虫が減少するため、働き蜂が特に凶暴になると言われています。

スズメバチに注意!!

近くにいることを常に意識してください。まず刺されないこと、そして万が一刺された場合も想定し、正しい対処方法(※)を心得てから入林することが大切です。

※へ蜂に刺された場合の応急処置▽①近くに巣があることを考慮し、姿勢を低くしてその場から速やかに離れる。②刺された箇所を周囲を強くつまんで毒を絞り出し(口は使わない)、患部を流水などで洗い流す。ポイズンリムーバーなどの専用器具があるとよい。③抗ヒスタミン剤を含む軟膏等があれば塗布し、できるだけ早く医師の診察を受ける。なお、アレルギー体質のある人はショック症状が出る場合があるので、事前に検査を受けて自分の体質を知っておくことも重要。



ポイズンリムーバーを使用する様子

「夏休み期間中の森林パトロール」を実施

屋久島山岳部利用対策協議会では、夏休み期間中は登山者が増加することが見込まれることから、この時期になると、協議会メンバーによる縄文杉等への森林パトロールを行うことが恒例となつています。

屋久島森林管理署と屋久島

屋久島の植物



アオバノキ
(ハイノキ科)

屋久島を分布の北限とする常緑高木。低地の林内に見られ、葉は幅7cm、長さ20cmほどの長楕円形。花は白く、ブラシ状の小花が多数集まって咲く。

花期八～九月

屋久島町ドラゴンボート参戦

八月十二日、宮之浦川において、屋久島町ドラゴンボート大会が行われました。この大会は、一大会を通じて郷土を愛する心を養い、健康で明るく豊かな郷土づくり及びドラゴンボートの普及～を目的として、今年で五回目の大会となりました。

森林環境保全センターでは、職員2・3名のチームを組んで、淀川登山口～宮之浦岳、ヤクスギランド～太忠岳等の6つのコースにおいて森林パトロールを行い、登山道の危険箇所の点検、登山者へのマナーの呼びかけなどを行いました。コースの中で最も登山者が多い縄文杉については、マナー指導が中心となりましたが、木製デッキ上で写真撮影などのために混雑する光景は、いつも通りの印象でした。パトロール期間中は、台風の襲来もありましたが、全体として大きな被害や事故はありませんでした。今後も引き続き呼びかけを行うなど、登山マナーの向上に取り組みしていきます。



混雑する縄文杉デッキ



熱戦の様子

今後、地域のイベントに積極的に参加し、地域との連携・親睦を図って参ります。

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会からのお知らせ

森林環境整備推進協力金について

皆様方の自然休養林に対するご協力に対しまして、心からお礼申し上げます。

皆様方からいただきました森林環境整備推進協力金は、下記のとおりヤクスギランドと白谷雲水峡の森林環境整備事業に使用させていただきました。

1 平成23年度収入

協力金として収受した金額 **45,609千円**

2 平成23年度特定森林環境整備事業費

自然休養林の環境整備等に拠出した金額 **50,356千円**

支出内訳

①人件費

28,360千円

(林内点検・修繕、小屋清掃、駐車場整理及び協力金収受業務等)

②施設整備

3,179千円

(観察路補修、看板作製、バリアフリー歩道設計、橋梁設備点検等)

③森林教育及び普及啓発

7,503千円

(リーフレット印刷、チケット印刷、ポスター代、バス借り上げ料、消耗品等)

④森林整備、環境保全

8,531千円

(白谷小屋屎尿処理、白谷トイレ浄化槽保守料、弥生杉樹勢回復措置等)

⑤その他

2,783千円

(車検、保険、通信費、燃料費、需用費、役務費等)

お問い合わせ先

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会 TEL 0997-42-3508



屋久島の野鳥

《屋久島の森に棲む南の鳥達》

南方系の生物が数多くみられる屋久島ですが、鳥類についても南西諸島を分布域とするズアカアオバトや、キビタキとサンショウウクの亜種が生息しています。

キビタキとサンショウウクの亜種は、南方系を特徴づける「リュウキュウ（琉球）」の名を冠し、本土で見られる別亜種とは外見上の違いでも区別が可能です。ズアカアオバトとリュウキュウサンショウウクイは留鳥として、リュウキュウキビタキは夏鳥として、屋久島で観察することができます。

いずれも森林で暮らす鳥達であり、特徴的な鳴き声はよく耳に残ります。シャッターチャンスは少ないですが、運が良ければゆっくり姿を観察することもできるでしょう。